

〈研究ノート〉

生徒の地理的認識を育成するための実践的な研究
—地理的な見方や考え方を中核とした動態地誌的な学習指導を通して—

潮来市教育委員会
打越正貴

潮来市立日の出中学校
神宮司剛

抄録

本小論では、生徒の思考指導という観点から、地理的認識を動態地誌的な学習を通して、効果的に育成する指導方法を明らかにすることを目的としている。平成24年度から完全実施となった中学校学習指導要領の地理的分野では、地域学習において、動態地誌的な学習による指導を提示している。しかし、これまでの地理的分野の学習においては、地域の特色を地形、気候、人口、産業等を網羅的に学習する静態地誌的な学習が一般的であった。本小論における動態地誌的な学習方法の工夫・改善が学校現場において、生徒の地理的認識を育成するための参考になれば幸いである。

キーワード：地理的認識 動態地誌的な学習 静態地誌的な学習 地理的な見方や考え方

1. はじめに

筆者らは、これまで社会科学学習における生徒の思考指導について、様々な実践を試みてきた。特に生徒の思考過程の研究において、学習と記憶に関してイメージを重視するなど、生徒の思考を象徴化する方略をもちいた学習指導の在り方¹⁾を研究してきた。Wittrockら²⁾によれば、生徒の背景にある知識と以前に学習した方略が教授の知覚に影響を及ぼしていることの重要性を指摘している。さらに、長谷川・佐々木ら³⁾は、授業と教授との関係において生徒の理解が、学習者個々の思考過程の在り方に規定されていることを踏まえ、学習過程において基礎となるのは、所定の教育過程において必須に習得すべきとされている情報知ではなく、そうした情報知もが位置付けられるところの学習者の思考過程の総体の具体的な在り方であると述べている。これを教育実践に置き換えると、生徒の思考活動を促進するためには、学習者の様々な経験（学習経験及び生活経験）と習得すべき情報を効果的に結合させ、学習内容を相対化してとらえる学習指導が重要であると言える。そこで、本年度は、中学校において新学習指導要領の完全実施にあたり、特に、地理的分野における指導方法に動態地誌的な学習⁴⁾が取り入れられたことから、「地理的な見方や考え方の促進」＝「生徒の思考指導」ととらえ、その効果的な学習指導方法を明らかにする必要があると考えた。

2. 問題の所在

これまでの中学校社会科における地理的分野の学習では、過去2回の学習指導要領から次のような指導内容の変遷があった。平成元年度の学習指導要領の諸地域の学習では、同じ項目で各地域の学習が進められるため、個別の知識を機械的・表面的に記憶する学習に陥りやすいという指摘があった。

さらに、平成10年度の学習指導要領の地誌的学習においては、地域的特色を自然、農業、工業等の視点から取り上げ多面的に学習する方法が提示された。特色のある分野ごとに取り上げてはいるが、学習方法は以前と同様に、静態地誌的な学習であるため、地理的事象が網羅的、平板的な理解を促進する傾向が強かった。これらの課題を受け、この度の平成20年度の学習指導要領の地理的分野においては、世界や日本の諸地域の地域的な特色を学習する項目が新設され、より一層の地理的認識の獲得を重視した地誌的な学習の充実が図られることとなった。⁵⁾ 地理的認識とは、諸地域の地域性を認識することであり、これを育成するためには、地誌的な学習を充実させ、地域的特色を有機的に学習させることが重要である。特に、この度の改訂では、指導方法として動態地誌的な学習が導入が明記されるに至った。これまでも授業では、機会があるごとに、地域的特色を視点とした動態地誌的な方法を活用した学習を試みてきたが、生徒は固有の事象を網羅的に理解する傾向が強く、各特色を有機的に結びつけ、全体的な特色を理解することが難しかった。そこで、生徒の思考指導の観点から、取り上げた地域を特色づける地理的事象に着目し、「なぜ、その地域でそのような特色が見られるのか」という具体的な理由を発見する視点を明確にして、地理的特色を多面的・多角的に明らかにするための動態地誌的学習の効果的な指導方法を明らかにする必要があると考えた。

3. 研究の目的

本研究の目的は、生徒の思考指導として地理的な見方や考え方を中核に据え、動態地誌的な学習を通して、地理的認識を育てる効果的な社会科の学習指導方法を明らかにすることである。動態地誌的な学習により、生徒に地理的認識を育成するためには、諸地域の様々な種類やスケールの地図、景観、統計資料、衛星画像等映像資料、文献等の資料から、学習の主題や中核となる地理的事象を見だし(地理的な見方)、その背景や要因を予想したり、同地域の様々な地理的事象と関連付けたり、他の地域の地理的事象と比較したりするなど(地理的な考え方)の活動が重要である。そのために、以下のような方法を考え、その有効性を明らかにする。

- (1) 地理的な見方や考え方を活用する場面を明確にした単元全体の学習過程の構成
- (2) 地理的な見方や考え方を育成するための効果的な指導の工夫

4. 研究の方法

- (1) 地理的な見方や考え方を活用する場面を明確にした単元全体の学習過程の構成

地理的な見方や考え方を活用する場面を明確にしなが、動態地誌的に地域的特色を学ばせる単元全体の学習過程を構成する(図1)。また、地理的な見方や考え方の焦点化を図るために、調べようとしている地域を一つのまとまりにとらえ、全体としてどのような特色があるかという視点で地域的特色を学ばせる場合(全域)は、同一地域の様々な地理的事象との関連付けを図る。他の地域と比べて、特にその地域で目立つものに着目して地域的特色を学ばせる場合(基域)は、他の地域の地理的事象と比較の活動を実施する。

- (2) 地理的な見方や考え方の活用を図るための指導の工夫

地理情報の収集、地理的事象の発見、関連付け、比較の活動において、地理的認識のために、地

理的な見方や考え方の活用を図る作業的、体験的な学習を実施する。

① 諸地域の地理情報を収集する活動では、「自然環境（地形、気候、降水量、気温、自然災害など）」「人々の生活（人口、人種、民族、衣食住、宗教など）」「産業（農林水産業、鉱工業、商業など）」「他地域との結び付き（貿易、交通、観光地など）」の4つの面を活かして、それらに関する資料を教科書、地図帳、資料集などから収集させる。

② 主題や中核となる地理的事象を発見する活動では、追究したい事象や事柄を地図化することにより、位置や空間的な広がりとの関わりで地理的事象を見いださせる。

③ 同地域の様々な地理的事象と関連付ける活動では、「その事象がなぜそこに、そのように分布し、そのように見られるのか。」を追究する。そのために、TPシートで作成した地形・気候（気候帯、気温、降水量）・人口密度などの関連付けシート（図2）を活用する。このシートは、透明なため、複数枚重ね合わせることができ、他の地理的事象との相関性や

関係性が視覚的に考察できるという利点がある。この関連付けシートを追究したい地理的事象の分布図に重ねて、「○○の分布は何と関係しているのだろうか。」と考えさせる。

④ 他の地域の地理的事象と比較する活動では、「その事象は、そこでしか見られないのか、他の地域では見られないのか。」を追究する。そのために、学習形態を工夫しながら、ワークシートを取り入れることにより、視点を明確にしながら、比較の対象を焦点化させ、地域的特色の地方的特殊性と一般的共通性を考えさせる。

(3) 授業実践

平成24年度に潮来市立日の出中学校第2学年を対象に、地理的な見方や考え方を活用する場面を明確にしながら、「世界の諸地域—アジア州—」の地域的特色を学ばせる動態地誌的な学習を実

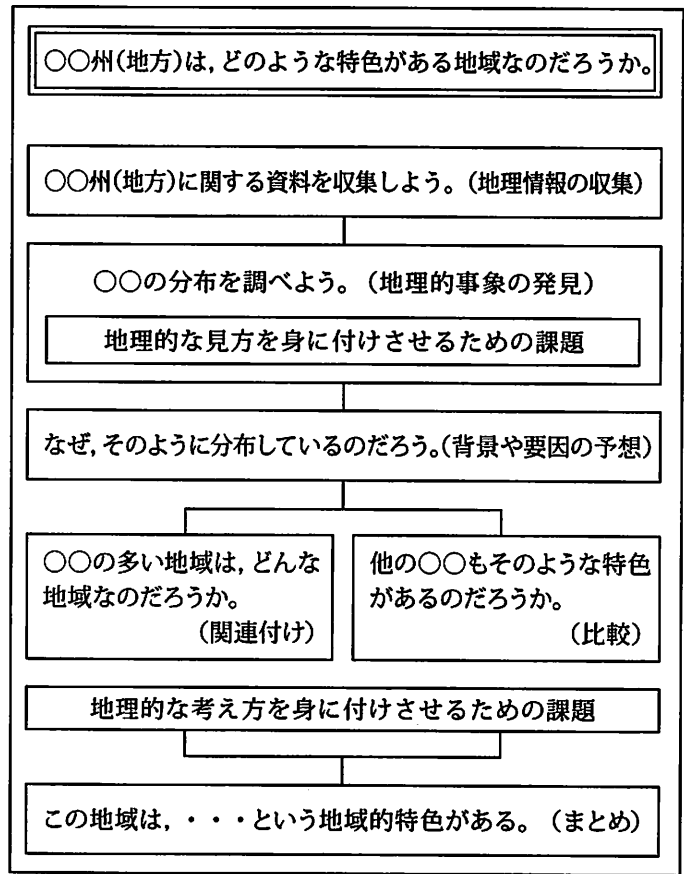


図1 地理的な見方や考え方を活用する場面を明確にした動態地誌的な単元全体の学習過程

<p>(地形) ロッキー山脈やミシシッピ川周辺の大平原と関連付けできるようにする。</p>	<p>(気候) 北部から南部へ冷帯→温帯→亜熱帯と変化する気候や降水量、気温と関連付けられるようにする。</p>
<p>(人口密度) 東海岸や五大湖周辺の大都市と関連付けられるようにする。</p>	

図2 関連付けシートの例

施した（実践1）。また、「世界の諸地域—北アメリカ州—」の学習では、関連付けシートを用いた同地域の様々な地理的事象と関連付ける活動やワークシートを用いた他の地域の地理的事象と比較する活動を実施した（実践2）。

（4）検証の方法

- ア 動態地誌的な単元の学習過程において、抽出生徒が説明した地理情報の収集、地理的事象の発見、関連付け、比較を記録し、諸地域に関する地理的認識が高まったかを考察する。
- イ 単元の学習前後において、地理的認識のために、地理的事象を見いだしたり、関連付けたり、比較したりするなどの地理的な見方や考え方が活用できるようになった生徒の人数を調査し、その変容を比較する。

5. 研究の結果と考察

（1）地理的な見方や考え方を活用する場面を明確にした単元全体の学習過程の構成について（実践1）

本単元における生徒Aの学習の様子を示す。

- ① 諸地域の地理情報を収集する活動では、「アジア州に関する資料を収集しよう」の学習課題のもと、教科書、地図帳、資料集から4つの面に関わる地理情報を適切に収集した（図3）。
- ② 主題や中核となる地理的事象を発見する活動では、「アジア州の人口分布を調べよう」の学習課題のもと、人口に主題をおいた分布図を作成し、それを地理的な見方で読み取ることによって地理的事象を見いだした（図4）。
- ③ 同地域の様々な地理的事象と関連付ける活動では、「アジア州で人口が多い地域は、どんな地域なのだろうか」の課題のもと、アジア州の人口分布と様々な面の地理的事象の相関性や関係性を考察した（図5）。

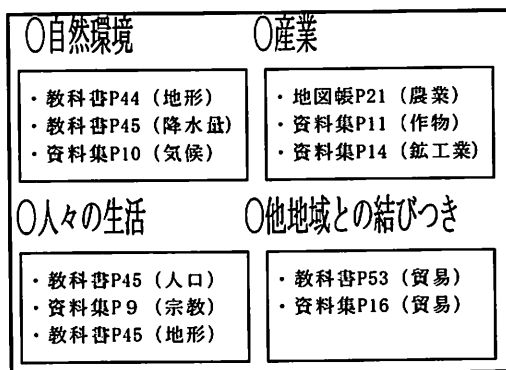


図3 地理情報の収集

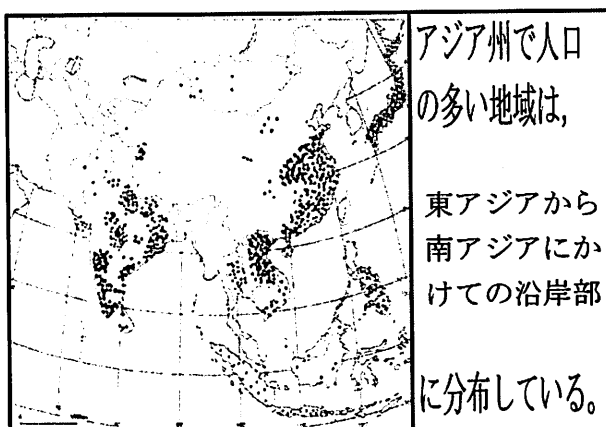


図4 地理的事象の発見

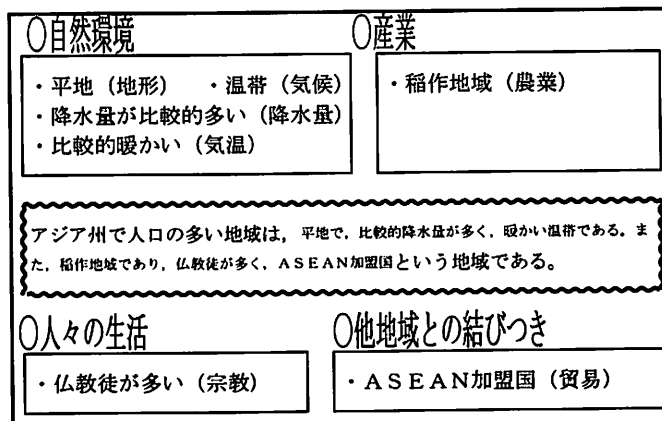


図5 関連付け

④ 他の地域の地理的事象と比較する活動では、「他の人口の多い地域も、そのような特色があるのだろうか」の課題のもと、関連付けでとらえた地域の特色を他の人口の多い地域の特色と比べ、地方的特殊性と一般的共通性に分類した(図6)。生徒Aは、地理的な見方や考え方の活用を図りながら、動態地誌的にアジア州の地域的特色を学び、地理的認識が高まった様子が見られた。

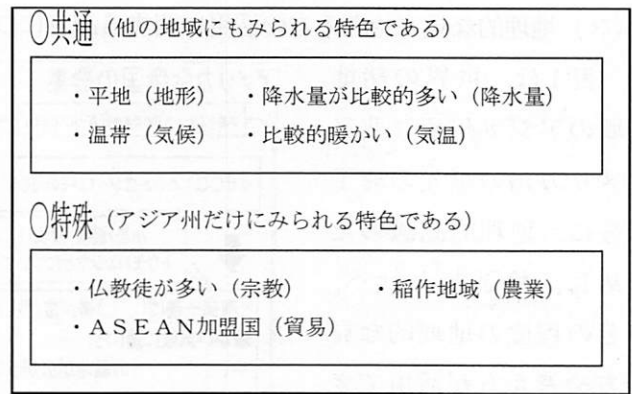


図6 比較

(2) 地理的な見方や考え方の活用を図るための指導の工夫について (実践2)

ア 授業の様子

同地域の様々な地理的事象と関連付ける活動では、「北アメリカ州の農畜産物の分布は、何が関係しているのだろうか。」の追究において、図7のような地形、気候(気候帯、気温、降水量)、人口密度の5種類の関連付けシートを利用し、生徒自ら操作する活動を取り入れた。生徒はシートを一枚ずつ重ね合わせたり、数枚を同時に重ね合わせたりしたことにより、農畜産業の分布と他の地理的事象との関わりを意欲的に考えはじめた。TPシートで作成した関連付けシートを活用したことは、課題が困難であるとあきらめていた生徒の意欲を引き出した。また、社会的な思考の過程が視覚的にとらえられるため、授業者の説明やワークシートのみでは身に付けることの難しかった筋道を論理立てて考える学習に深まりが見られた。他の地域の地理的事象と比較する活動では、ジグソー学習の学習形態で、図8のようなワークシートを活用して、日本の農業と比較しながら、北アメリカ州の農業の特色を地方的特殊性と一般的共通性に分類した。

イ 関連付けシートの活用による学習の成果

北アメリカ州の農業を同地域の様々な地理的事象と関連付けて地域的特色を学ぶ学習において、次のような手順で学習を進めた。まず、生徒に北アメリカ州の農業の分布図を作成させ、地形の関連付けシートを重ね合わせさせた。これにより、綿花は、ミシシッピ川流域で栽培が盛んであることに気付いた。次に、降水量の分布図と重ね合わせると、雨量が多いところで、綿花栽培は盛んであるということに気付いた。さらに、気温の分布図と重ね合わせると、暖かいところで綿花栽培は盛んであることに気付いた。これらの関連付けシートより、綿花栽培は水が豊富で暖かいところで盛んなのではないかとの結論に達した。図9は、生徒Bが、綿花栽培の分布を様々な地理的事象と関連付けた様子である。

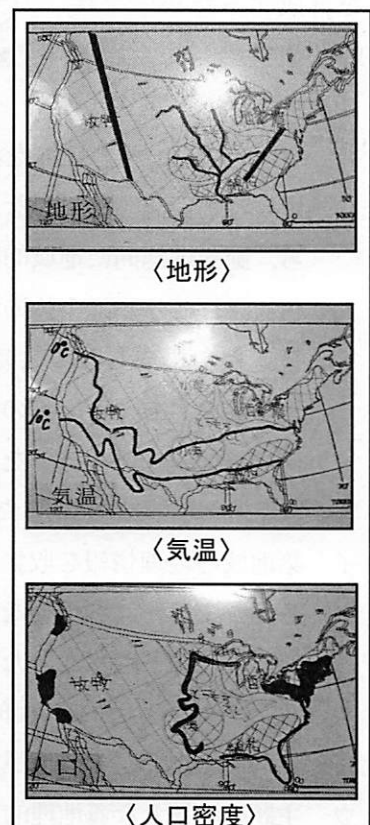


図7 関連付けシート

(3) 地理的な見方や考え方の活用に関する調査について

表1は、世界の諸地域のアジア州及び北アメリカ州の単元の終了後に、地理的認識のために、検証前と比べ、どの程度の地理的な見方や考え方が活用できるようになったかを調査した結果である。単元終了後には、3項目とも伸びていることが分かる。

6. 研究の結論

地理的な見方や考え方を中核とした動態地誌的な学習指導を通して、生徒の地理的認識を育成するための実践的な研究の結果、次のことが明らかとなった。

- ア 地理的な見方や考え方を活用する場面を明確にしながら、動態地誌的に地域的特色を学ばせる単元全体の学習過程を構成したことは、地理的な見方や考え方の基礎を培い、地域的認識を養う手段として有効であった。
- イ 諸地域の地理情報を収集する活動では、4つの面を活かして、資料収集をした結果、後の追究活動を多面的・多角的に展開することができた。

- ウ 主題や中核となる地理的事象を発見する活動では、追究したい事象や事柄を地図化することに

図8 比較の活動で活用したワークシート

- ・綿花栽培は、地形と関連付けると、ミシシッピ川流域で盛ん。
- ・綿花栽培は、降水量と関連付けると、雨の多いところで盛ん。
- ・綿花栽培は、気温と関連付けると、温かいところで盛ん。
- ・酪農は、気温と関連付けると、寒いところで盛ん。
- ・酪農は、人口と関連付けると、人口密度の高いところで盛ん。

図9 関連付けシートの活用による学習の成果

表1 地理的な見方や考え方の活用に関する調査

(検証前：平成24.5.28実施，アジア州単元終了後：平成24.7.12実施，北アメリカ州単元終了後：平成24.10.15実施，潮来市立日の出中学校第2学年C組 31人)

活用の状況	地理的事象の見だし	関連付け	比較
検証前	17人	9人	13人
アジア州終了後	25人	16人	22人
北アメリカ州終了後	30人	23人	26人

よって、位置や空間的な広がりとのかわりかかわりで地理的事象を見いだすことができた。

- エ 同地域の様々な地理的事象と関連付ける活動では、TPシートで作成した関連付けシートを重ねる作業を通して、生徒の地理的な見方や考え方を育てることができた。それは、同時に基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得を図ることにつながった。
- オ 他の地域の地理的事象と比較する活動では、ワークシートを取り入れることにより、視点が明確となり、比較の対象を焦点化することができた。

7. おわりに

本小論は、生徒の思考指導の観点から、生徒の地理的認識を育成するために、新たに導入された動態地誌的な指導の効果的な指導方法を追究してきた。静態地誌的な学習と比べ、動態地誌的な学習は、C.G. ユングが「人は象徴づくりする傾向をもち、無意識のうちにもものや形を象徴に変容させていく」⁶⁾と述べているように、地域の中核となる特色を入り口とする学習方法であるため、生徒の知的好奇心を喚起させる効果が見られた。しかし、その一方で、特色を様々な社会的な事象とどのように関連させ、また、どのように比較して生徒の地理的認識を育成していけばよいかについては、生徒間差異が大きく、今後様々な実践を通して明らかにしていかなければならないと考える。特に、適切な主題を中核におく事象に関しては、既存の資料ばかりではなく、生徒の生活経験とつなげた事象が提示できるようにするための研究が必要である。

註

- 1) 打越正貴『生徒の思考指導に関する実践的研究』1998、一イメージを「色」と「形」で表現する方略を用いた授業改善を通して一、茨城大学大学院修士論文、p10～p44.
- 2) 『HAND BOOK OF RESEAH ON TEACHIN』1997, Third Edition. A PEOJCT OF THE AMERICAN EDUCATIONAL RESEARCH ASSOCIATION Edited by Merlin C Wittrock MACMILLAN LIBRARY REFERENCE USA Simon & Schuster Macmillan NEW YORK, p297～p314.
- 3) 長谷川栄・佐々木俊介『授業における教師に意志決定に関する予備的考察』一付・授業における「問い」に関する総合的研究IV一筑波大学教育学系、1991、p108.
- 4) 文部科学省「中学校学習指導要領解説社会編」2008、p9.
- 5) 同、p19-20.
- 6) C.G. ユング河合隼雄訳『人間の象徴（下）』1982、河出書房新社、p130.

参考文献

- 文部科学省「中学校学習指導要領」2008、1998.
- 堀内一男・大杉昭英・伊藤純郎編著「中学校教育課程講座社会」ぎょうせい、2009.
- 堀内一男・伊藤純郎・篠原総一編著「中学校新学習指導要領の展開社会編」明治図書、2008.
- 澁澤文隆著「中学校社会科新地理学習の方向と展開」明治図書、2001.
- 森分孝治・片上宗二編著「社会科重要用語 300 の基礎知識」明治図書、2000.

○ 編集後記

『教育実践学研究』第16号をお届けいたします。

本号は編集委員会の審査の結果、原著論文6編、研究ノート1編を掲載することとなりました。多くのご投稿をいただき有難うございました。

査読のご担当をいただきました会員の皆様には心よりお礼申し上げます。諸般の事情により発刊が大変に遅れましたことを深くお詫び申し上げます。

なお、今後とも多くの会員の皆様よりご投稿をお待ち申し上げます。

(文責 工藤 亘)

○ 紀要編集委員会

- ◎工藤 亘 (玉川大学)
- 森山 賢一 (玉川大学)
- 相場 博明 (慶應義塾幼稚舎)
- 田子 健 (東京薬科大学)
- 金山 康博 (共栄大学)

(◎ 編集委員長)

教育実践学研究第16号

2012年3月31日

発行：教育実践学会（会長 森山 賢一）

事務局：〒194-8610

東京都町田市玉川学園 6-1-1

玉川大学教育学部内

工藤亘研究室

TEL：042-739-8026

印刷：玉川学園 DTP 制作課

東京都町田市玉川学園 6-1-1

TEL：042-739-8136

FAX：042-739-8136